

群巒色は紫に

作詞：不詳

1. 群巒色は紫に

ぐんらん

銀波さゆらぐ太平洋

青海原を堂々と

あさひ ごと

朝日子昇る曙や

希望の光輝ける

わが世の春に 似たるかな

群巒：群がった山々

銀波：月光などがうつって銀白色に光る波

さゆらぐ：「さ」は接頭語

朝日子：朝日

2. 天の靈氣を地に呼ぶと

れいき

胸の高鳴り覚えつつ

自重と自治の旗著し

起つや七百(一千)意気のか

嗚呼微笑みと誇らいの

雄々しき姿 見よや見よ

靈氣：靈妙な氣

神仏が乗り移ったような不思議な氣配

著し：きわだっている。はっきりしている

誇らい：「誇る」にふのついたもの

「ふ」は接尾語、動作の反復、継続される意をあらわす

※元歌が不詳である